📖 図書館だより Ｙぶらりー 📖　横浜商業高等学校 第9号

卒業式が近づき、しんみりした気持ちになっています。 Ｙ校に赴任してまもなく一年、Ｙ校生の素晴らしさに触れ驚くことばかりの毎日でした。 とくに３年生は普段から利用も多く、楽しい思い出がたくさんあります。 争奪戦となることを覚悟していた雑誌の付録の抽選会を鮮やかにさばいてくれた子、素敵な名前の由来を教えてくれた子、63 巻まで刊行されている漫画を読破し友達にもすすめてくれた子、簿記の勉強がどんなに楽しいかを目をキラキラさせて話してくれた子、引退試合の前日にお守りを祈るようにしながら作っていたマネージャーさん、好きな本を楽しそうにおススメし合う子たち、誰に言われるでもないのに毎朝何時間も早く登校して学校の周りを掃き清めてくれる心の美しい子、いつもふざけている姿しか見ていなかったのに受験が近づいてきたら驚くような集中力を見せていた子……。 清々しい気持ちになるような思い出ばかりが心に残っています。 いま、Ｙ校を旅立つみんなにぜひ見てもらい本は『Ｙ校百年史』(376 ワ) です。 まもなく百四十周年を迎えるＹ校の、創立から百年までの歩みが記されています。　百年の歴史をひもとくことで、その歴史を彩る一員になる誇りを感じられるのではと思います。 卒業しても、横浜市中央図書館にて貸出も可能です。　　司 書

📖　参考書コーナーのお引越し 📖

司書室の壁添いにあった参考書コーナーが、廊下側の小説コーナーの手前に引っ越しました。

簿記検定の本や英検対策、TOEIC 対策、チャート式数学、日本史・世界史のテキストや現代文・古文・小論文のテキストなど、学習に役立つ参考書がありますので、ご利用ください。

📖　2022本屋大賞 ノミネート本 📖

２０２２年本屋大賞のノミネート作品が出揃いました。

全国の書店員さんからの投票で選ばれる作品は、読み応えのあるものが多く、過去のノミネート作品は、２０２０年の第１７回までに７９作品が映像化されています。
今回はノミネート１０作品のうち、５作品を紹介します。すべて図書館に所蔵がありますので、１０冊読んで大賞を予想してみませんか。

〇米澤穂信『黒牢城』（913.6 ヨ）

２０２１年度下半期の直木賞にも選ばれたこの作品は、歴史ものでありながらミステリ小説でもあるという、面白さ二倍の重厚な作品です。織田信長に叛旗を翻して有岡城に立てこもった荒木村重が、城内に起こる事件を地下牢で囚われの身となっている黒田官兵衛の智恵を得て解決に至る心理戦に興奮させられました。今まで時代物は苦手だった人でも楽しめるはずです。

〇西加奈子『夜が明ける』（913.6 ニ）

テレビ局の AD として過重労働に耐える日々を送る主人公の、高校生から 33 歳になった現在までの人生を描いた物語です。また、主人公の同級生の半生も並行して語られますが、二人とも努力して生きているのに報われず、その背景には貧困や虐待もからみ、読んでいてやるせなさのような感情がつのってきます。それでも、そういった社会問題だけではなく、人の「痛み」から目を背けないで生きていくために、この本を手に取ってもらいたいと思います。

〇知念実希人　『硝子の塔の殺人』（913.6 チ）

最初のページで犯人がわかり、第一章ですぐに殺人事件が起こり、殺害方法も動機も明らかになった上に、ほとんどの登場人物が現れる。この先あと４５０ページくらいどうなってしまうのかとの心配は無用でした。ラストに向けて二転三転するまさかの展開にページをめくる手がとまらず、夜更かししてしまいました。全編に国内と海外の本格ミステリ作品へのオマージュがあふれていて、ミステリ好きにはたまらない作品です。

〇浅倉秋成『六人の嘘つきな大学生』（913.6 ア）

ライトノベル風のカバー画に、やはりライトノベルチックなタイトル、これは軽い話なのかな、と読んでみたら、いやはや深い内容に予想を覆されました。就活に挑む六人の大学生が心理戦を繰り広げ、ミステリ要素もたっぷり、そして描かれたリアルな就活の厳しさは読んでいてちょっとつらくなるほどです。さまざまに張り巡らされた伏線もラストにはすべて鮮やかに回収されて、読後感もスッキリ、読んで損のない一冊です。

〇逢坂冬馬『同志少女よ、敵を撃て』（913.6 ア）

第二次世界大戦時に、ソ連赤軍の狙撃兵としてナチスドイツと戦った女性の物語です。戦闘の情景や狙撃の生々しい描写に身のすくむ思いをする場面もありますが、それらも現在のウクライナ情勢を見ると、お話の中の数十年前の出来事だと済ませられません。戦争で戦う意味とは何か、この小説の主人公たちも、それをずっと考えています。

🕮　今月のおすすめ本　🕮

〇藤井英二郎、海老澤清也、當内匡、水眞洋子

『街路樹は問いかける　温暖化に負けない<緑>のインフラ』　（518 フ　ブックレット）

Ｙ校のヒマラヤ杉の剪定作業を見ていて、こうして丁寧に手をかけることで、長い年月を経ても真っすぐに伸びる美しい姿が保たれているのだと感じました。この本は、普段あまり気にかけることのない街路樹について、その機能や歴史、諸外国の状況などが書かれており、街路樹のもつ可能性を最大限に生かして地球温暖化対策に役立てていく存在とすることを提言しています。

ブックレットとは、A５サイズの薄い書籍で、岩波ブックレットというシリーズ名で多くブックレットを出版している岩波書店によると「様々な領域の第一人者が問題の本質をコンパクトにわかりやすくまとめた岩波ブックレットは，ネットの情報に振り回されずに自分自身で考えるための最強のツール」だそうです。課題研究などで、もう少し深く掘り下げた本を探したい、というときには、図書館のまんなかあたりにあるこのブックレットのコーナーや、新書のコーナーも覗いてみたら、新たな発見があるかもしれません。

🕮　横浜市立図書館から　🕮

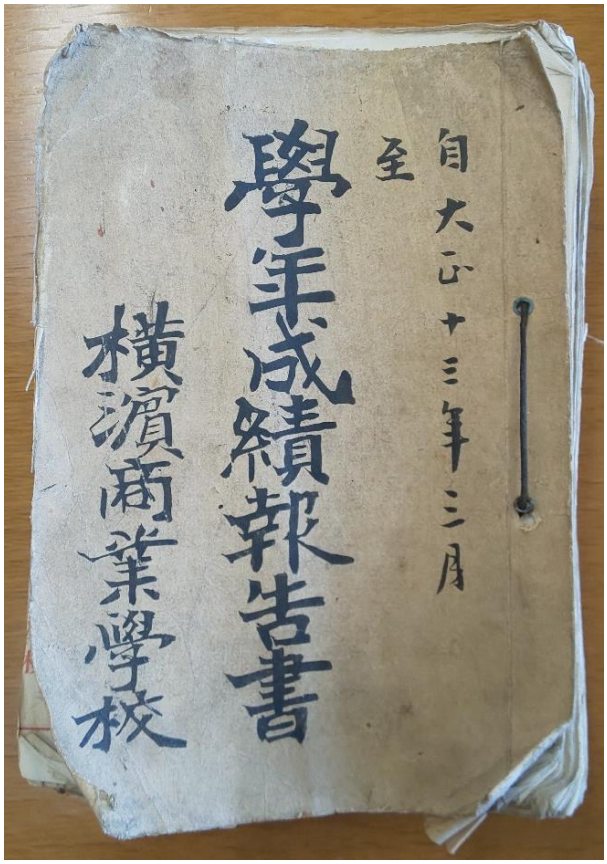
★中央図書館地下１階のリニューアルのお知らせ★

中央図書館の地下１階が、3 月 30 日（水）から学生の利用に最適な「交流と学びのフロア」としてリニューアルするそうです。自習のスペースとしての利用はもちろん、会議ができるおしゃべり可能な場所もあり、Wi-Fi も利用できます。
さまざまなイベントも予定しているようです。春になって、野毛の桜を楽しんだあとは、中央図書館の地下の交流と学びのフロアで過ごしてみてはいかがですか。

詳しいことはこちらからどうぞ　➡

地下１階交流と学びのフロア　🔍

Y校アーカイブ　vol. 8　「學年成績報告書」



大正13年から昭和15年までの生徒の「學年成績報告書」です。 といっても、一人ひとりの詳細な成績が記載されているわけではなく、学年ごとに、及第者、落第者などの人数や氏名、成績優秀者や皆勤賞などの受賞者、そして卒業生の氏名が丁寧に手書きで記されています。

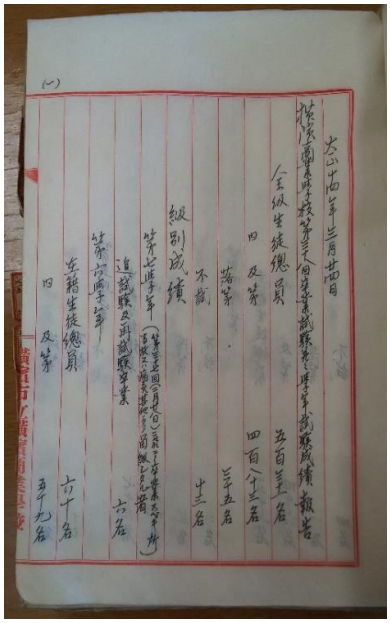
表紙と裏表紙には鳩目が打たれた少し厚めの紙が使われており、中の紙は縦に罫線が引かれた薄い原稿用紙で、黒の綴り紐を使って綴られています。新しいものは裏から足しています。17年間分で約6センチの厚みがあります。

赤い罫線が引かれた大正13年の原稿用紙の中央下部分にある学校名は「横濱商業學校」、大正14年からは「横濱市立横浜商業學校」となっており、毎年新しい原稿用紙を作成していたことがうかがえます。大正14年までは7学年分の生徒の記載があり、大正15年になると本科が5学年まで、専修科が2学年となっています。昭和5年には、現在の横浜市立大学の前身である「横濱市立横濱商業専門學校（呼称：Y 専）」の学年成績報告が青い原稿用紙で現れます。下の写真の右側にあるのは、その横濱商業専門學校第一期生の卒業生が記されているものです。

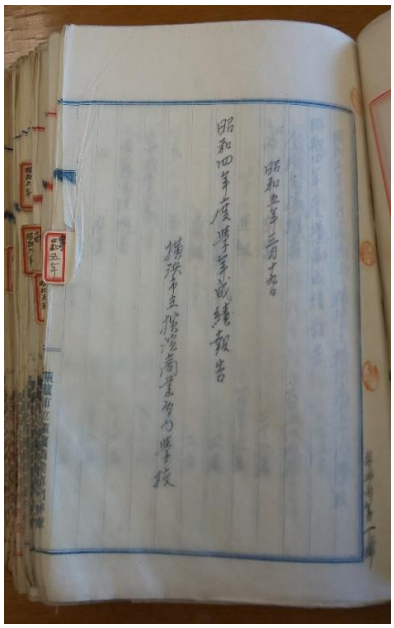
Y校の卒業生はいろは順に並んでいますが、Y専では昭和7年の卒業生から ABC 順となっています。

お休みをせず頑張った「一学年間欠席遅刻早退欠課なくして皆勤成績佳良に付第○回美澤皆勤賞を得る者」だけでなく、「級長の職務良好にして賞せらるるもの」という賞もありました。

日露戦争で戦死を遂げたY校出身者十二名は、桜木町にある伊勢山皇大神宮に乃木希典将軍の揮毫による表忠碑が建立され祀られていますが、そのうちの三名（一時期四名）による「在学間成績優秀につき故北村、人見、石川　三歩兵中尉（田辺歩兵伍長）の奨学賞を受くる者」という奨学金もあったことが記されていました。



Y校



Y専